

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	ユニットぐんちゆう
所在地	伊予市米湊字西窪1131番3
自己評価作成日	平成21年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は月一回のケアカンファレンスや社外研修により、積極的に認知症について学び、認知症の利用者を理解し、その得た知識を活かして職場でいきいきと働いている。職場の人間関係が良く、この一年間の退職者はない。毎年介護のレベルアップを目標としている。職員のこの意欲的な態度をうれしく思う。利用者とのコミュニケーションを大切にし、利用者が安心して暮らせるように考え工夫している。ケアカンファレンスでは活発な意見が出ている。親身になって一人一人の利用者のここでの生活を考えている。又去年に引き続き、伊予農業高校による園芸セラピーも毎回盛況である。土や花にふれ、体を動かすことで、癒しの時間となっている。若い孫のような高校生とのふれあいの時間を皆楽しみにしている。ボランティアの受け入れも度々あり。だれでも気軽に話に来ていただけるような、アットホームなグループホームを目指している。去年よりは、訪問者増えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、「認知症の方に悔いの残らないお世話をしたい」という熱い思いを持ってケアにあたる職員一人ひとりを大切に思い、協力してホームの運営をしている。職員は、利用者に対して優しく配慮に満ちた対応をし、利用者への尊敬の思いが深く、利用者と共に過ごす中で人生の先輩として精神的に支えてもらったり助けてもらっていると感じている。声かけや会話は豊富で、ちょっとしたしぐさも見逃すことなく、希望の実現に繋げるよう努めている。孫世代の高校生と触れ合う園芸療法は利用者の心身の癒しとなっており、「よう来たな」「また来てな」と毎回楽しみにしている。介護計画はホームが独自につくり上げた様式を使っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)

氏名 武智 美知子

評価完了日 平成21年 10 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「その人らしく 安心して 地域の中でなじみのある生活を支援する」を事業所サブ理念として、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、理念を共有し、カンファレンスなどの会を利用して職員は話し合いながら、日々の実践につなげていっている。職員の疑問点・気づきを聞き、レベルアップを図っている。</p> <p>(外部評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」の理念を実践するため、全職員が接遇を第一に心がけたケアに取り組んでいる。サブ理念の達成のため、時間と手間を惜しむことなく地域との関わりに積極的に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 1～2週間に一度買い物やドライブの日を設け、積極的に伊予市内に出かけている。フジや町家等での買い物は皆楽しみにしている。毎年の住吉祭りの造り物展示・伊予踊りでは、地域のみなさんに楽しみにしていただいている。園芸セラピーの受け入れ・ボランティアも毎月のようにあり。組入りもして回覧板も回っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、井戸端会議ができるくらいに開かれたホームを目指している。高校生から園芸の楽しさを教えてもらう機会を設け、利用者の気持ちが癒されている。飼い犬と一緒に散歩しながら近所の方と挨拶を交わしたり、季節の作物のおすそ分けをもらうこともある。ボランティアの受け入れは恒例になっており、利用者は心待ちにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症サポーター養成講座に参加し、それを全職員勉強会にて学び、皆オレンジリングを持っている。市役所主催の認知症徘徊者模擬訓練にも参加し地域の人達他に訓練中、認知症について答えた事もある。見学者・面会人の質問にも答え、ボランティア受け入れ時も認知症の理解を呼び掛け、支援の輪を広げる努力をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に地域運営推進会議を開き、参加者全員から意見・希望を聞き、サービス向上に活かしている。評価の公表も行った。何度か開催する内に顔見知りとなり、積極的に意見を言うようになってきた。管理者も他の事業所の地域運営推進会議に参加することにより、勉強した。サービスの向上に役立てたい。</p> <p>(外部評価) 外部評価の内容や改善点の報告、行事報告等だけでなく、会議の中で学習する機会も設けるなど、サービスの向上につなげるよう努めている。また、参加者から活発な意見を出してもらえよう運営の工夫もしている。</p>	<p>職員が会議の役割を分担することは内部研修の一つになり、また行事と会議との組み合わせは参加者にホームへの理解を一層深めてもらうために効果的であり、地域との連携のためにより有意義な会議となるよう検討を期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市役所関係他の行事には必ず参加し、情報収集・協力依頼を行っている。事業所内で起きた事故は必ず提出用紙に記入し、その都度報告を行っている。行方不明者が出た時には、社協・地域包括支援センター他に一番に連絡を取り、協力要請をした。数時間後お礼に行く。市役所への問い合わせをして確認し、営業で社協へ伺った。</p> <p>(外部評価) ホームの状況や相談事等を伝え、市の担当者や地域包括支援センターから課題解決のためのアドバイスや情報を得るなど、サービス向上のための協力関係を築いている。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会を開き、職員は具体的な行為を理解している。家族の希望や職員会議により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむおえない場合は家族の理解を得ている。玄関には必要時職員が交替で座るようにして、玄関の施錠をなるべくせず、開放的な雰囲気を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 玄関入口は、日中は施錠せず、18時から明朝9時までは安全のため施錠している。利用者の安全を守るため、見守りを怠らないよう職員のチームワークで対応している。身体拘束ゼロで利用者の人権を守る介護を貫いている。</p>	<p></p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 今まで虐待はなし。高齢者虐待のニュースがあれば、その都度職員で話し合う機会を持ち、知識を広めている。接遇に気をつけ尊厳を守る事の大切さを日頃より教育している。利用者からでなく職員からも困った事はないか聞く機会をつくっている。又元民生委員の来訪があり、利用者の相談の機会もある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社協で金銭管理をしている利用者あり。利用者、家族、社協との話し合い時には参加するようにしている。利用者の心配事には、親身に相談にのるよう心がけている。権利擁護に関する研修にも参加し、その後事業所内研修を必ず行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に添って説明し、質問にはわかりやすく説明している。納得していただいた上で契約手続きをしている。利用中の料金改定・契約の内容変更等あれば、その理由も含め、説明の文書を家族へ送付し了解を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議で率直な意見を頂き前向きに施設に反映させている。玄関入り口に意見箱を設置し、入れられた内容も公表できるものは公表し、参考にさせてもらっている。又面会時等利用者や家族の希望を引き出す為の場面づくりに、努力し希望に添えるよう配慮をしている。 (外部評価) 家族からの意見や要望を積極的に伝えてもらえるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議に出席してもらったり、家族の来訪時には職員が声をかけて利用者の様子等を伝えるよう心がけている。家族から褒めてもらった内容も含め、記録に残して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員に意見を聞く姿勢に努めている。月に一度のケアカンファレンスでも職員の意見を毎回聞き、必要な事は定期的なホーム長会議にて、代表者に伝え、良い方向へと改善している。自分から意見の出さない職員にはこちらから、場をもうけて聞き取るようにしている。 (外部評価) 管理者は、職員の意見や要望を積極的に聞くように努めており、役職や年代を超えた活発な意見交換により、職員全員でホームのサービス向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得者へは資格手当の支給あり。代表者は管理者を通し個々の努力や実績・勤務状況を把握し、昇給・賞与につなげている。又主任・リーダー等の役割を与えて、やりがいを持たせるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は管理者を通して各職員へ研修への参加を積極的にすすめている。高卒で勤務している職員には勤務しながらホームヘルパー2級を取得できるような環境を整えている。今年も実践者研修受講済み職員あり。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入している。又伊予市グループホーム連絡協議会研修にも毎回参加し、意見交換・情報収集をしながら交流を深めている。相互研修の参加により、他グループホームとの交流をはかった。 (「おもや」には利用者も数人行き交流あり。)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前アセスメントには十分時間を取って、本人や家族の声・思いを聞き取る努力をしている。特に初期の段階には常に本人に寄り添い思いを受け止め、不安な気持ちの軽減に努めてきた。又、家族とまめに連絡を取り、本人の身辺の環境を整え、家族にも安心してもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安な気持ちに共感し、できる範囲の情報提供に努め不安の解消につなげている。初期段階には、本人の状態等家族との連絡をまめに行い、安心していただいている。又本人と家族の思いの違いの有無の確認も行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始にあたっては、いつでも見学・問い合わせできるようにしている。通所介護はお試し日あり。本人と家族の希望を大切にし、相談に対応しながら他サービスとの連携に努めている。(病院受診の件等)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯たたみ・掃除・調理等持っている力を十分発揮していただき、生きがいをもって生活していただいている。又職員と利用者が一緒にすることで、気付くことやお互いを思いやる気持ちも生まれている。皆、家族の一員である。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の素直な意見やできごとを家族に報告しながら、職員も利用者の思いに寄り添っていることを感じていただきながら、家族と一緒に本人をささえていけるような関係づくりを大切にしている。面会の機会を多くしてもらえよう願いをしている。毎月ホーム日よりで近況を知らせ、写真等の送付も行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とのコミュニケーションの中でグループホームに親近感を持って頂き、友人・知人・親類等誰でも気軽に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。誕生日企画で本人希望の馴染みの人に逢ったり場所へ行き、希望をかなえている。 (外部評価) 家族や親族等から手紙が届いたり、幼馴染の訪問があったり、ふと会話の中に出てくる昔話から昔を懐かしむなど、馴染みの関係継続の支援を意識している。本人の希望に応じて、自宅に帰る、墓参りに行く、敬老会に参加するなどの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は常に周囲に気を配り、一人で過ごしている方・寂しい思いをしている方がいないか気を配り、声かけや関わりがもてるよう支援している。場の提供（セッティング）例・・・料理づくり・レクレーション。職員も利用者に教えてもらおうという姿勢がある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 万一入院した場合は、職員が定期的に見舞いに行き、利用者の状態の把握に努めて回復を見守っている。退居後も本人・家族の希望があれば、なるべく要望にそえるように努力している。電話での相談にも応じている。転居の場合は情報を転居先に提供し、本人に安心してもらっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人と話をする時間をゆつくりととり、具体的な希望を聞き、職員全員が希望を把握している。職員でカンファレンスを開きより情報の共有・具体的な支援方法を理解している。困難な場合には家族の希望を取り入れながら本人本意に職員全員で検討会議を行っている。 (外部評価) 居室は、利用者それぞれがほっと安心できる空間となっている。職員は、利用者の思いや希望を尊重し、部屋の片付けの手伝い等では、静かに見守りながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞き、生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境など可能な範囲で聞き取り、センター方式のシートに記入し、情報の共有・活用に努めている。又入居時のアセスメントに終わらず、新しい情報があれば、その都度書き入れ、情報活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の病歴や本人の心身状態がわかるように一覧表にまとめ、すぐに把握できるようにしている。日頃の生活の中で残存能力の発見に努め、それを職員間で情報を共有し、その力を発揮できる場をもうけている。（掃除・せんたくたたみ・おやつづくり手伝い他）	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 面会時又は電話にて家族の希望を確認した後、毎月ケアカンファレンスを開き、職員全員で本人に対する気づきを出し合い、課題・希望・支援方法を話し合い、その方に合った介護方法を考案し、介護計画を立てている。介護関係以外でも正看護師の参加により、医療面でのアドバイス・ケアについても助言がある為、学ぶ機会あり。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、まず利用者の希望を目標として定め、困っていることを課題として、支援や介護の内容・方法等を考えて作成している。さらに、より具体的な目標を設定して毎日記録に残し、月1回は評価して見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人別に毎日時間を追って状態を記入し、特に気になる言動があれば必ず記入して本人の状態を全員が把握できるようにしている。又ケアプランの具体的な項目にそって実行できたかどうか確認をし、実行できれば○印をし、月末にはそのプランに対しての評価を一言記入し、次月に反映できるようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症対応型通所介護を一日3名まで受け入れている。家族の希望によって時間の延長もしていた。また大きな催し物などは3事業所で参加している。家族にも呼びかけをし、施設内の季節の催しやボランティア行事などにも家族の面会時などを利用して声かけをしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域運営推進会議時以外でも、民生委員の方が来られたり、ボランティアで色々な催し物などもしていただきっており、年2回の消防訓練以外にも今年は救命講習も受けている。今年も伊予農業高校による園芸セラピーも昨年よりもバラエティが増え、フラワーアレンジメントなどの作品づくりも行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 病気の状態に応じて、本人や家族の希望する医療が受けられるように支援している。必要時眼科や歯科・整形外科等にも家族との連絡をとりながら、家族の希望を受けて治療を行っている。受診の際には情報を提供し、スムーズに受診できるよう支援している。連携を密にして健康状態の維持に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。協力医療機関からの訪問診療があり、本人や家族の希望があれば、かかりつけ医が異なる場合も受けることが可能な体制をとっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 早い段階で状態変化や異常に気付くために、職員が一日2回のバイタルチェックを行っている。異常が見られたら主治医に連絡をし、状態を知らせ指示をあおぐようにしている。その為にも看護職と介護職間で情報を共有し、利用者の健康管理に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には本人の状態を家族及び病院へ連絡をする。必ずスタッフも入院に付き添い、医療機関に日頃の本人の情報提供を行っている。入院中も見舞いに行った際、関係者から情報を得て、早期退院できるように準備している。退院時にも医療機関からの情報を提供してもらい、注意事項を確認し合って介護し、支援をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期のあり方は、本人の病状を家族に説明しながら、家族の希望を確認しながらできることの確認を行い、なるべく希望にそえるようにしている。緊急対応時はどの職員でも対応できるように指導・対応法を練習している。終末期には病院ドクター・ホームの看護職他に連絡するようになっていく。本年看取り指針策定。</p> <p>(外部評価) 看取りの経験はないが、今年度に看取りの指針を改訂し、より充実した内容とするべく検討している。看取り介護の体制は整えており、本人や家族の思い・希望を第一に考え、同意を得て取り組むこととしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日午前と午後の2回バイタルチェックをし、利用者の体調変化を早期に発見している。看護師に急変時の応急手当を指導してもらったり消防署で行なわれた講習会に参加し、参加できなかった職員にも伝えマニュアルを見たりして全員が対応できるようにしている。夜勤帯に急変した場合でも緊急連絡網があるので、慌てず対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、実際に消防署員にも来ていただき、助言・指導してもらっている。地域の方々には地域運営推進会議にて災害時の協力依頼を行っている。災害時に持ち出す最低限の水・食料なども準備できている。地区の自主防災の勉強会にも参加し、防災資材借りれるようになっている。 (外部評価) 消防署立ち会いのもと、夜間も想定した避難訓練を実施している。非常用の食料や備品の点検、消火訓練やビデオ学習等も実施している。近所の方にも訓練実施の際に声をかけ、協力が得られている。	運営推進会議等を通じて防災について話し合い、地域の協力を得ながら一緒に訓練を行ったり、ホームとして緊急連絡網を使った訓練の再確認を行うなど、より高いレベルの訓練を継続することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者との接し方（言葉遣い含め）に関しては、全職員が日頃から利用者を尊敬の気持ちを持って接するように努めている。又居室に訪室する時や入浴時にはその方のプライバシーを守る配慮をし、やさしく声かけしている。管理者として接遇の大切さを日頃より教育している。 (外部評価) 職員が利用者一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない対応に気をつけていることは、穏やかで笑顔あふれる利用者の表情からも伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるだけ本人が何をしたいのかを聞き、その希望に添えるように職員も一緒に考えている。考えている間のちょっとしたした表情にも気をつけながら本人の希望を把握していく。誕生日企画の外出も本人の希望を大切にしている。時々自宅へ帰って窓を開け空気の入れ替えをている事あり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操は強制参加ではなく、楽しみにしている方が自ら参加し、体調の悪い方は無理強いはしないようにしている。行事への参加や手作業も同じで、あくまでも本人のペース・生活スタイルを優先するようにしている。あせらず、職員は待つ事も大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、自ら洋服を着ることができない利用者には、職員が洋服を見せて選んでいただくなど、本人の意志を大切にしている。整容時も鏡の前で自分で髪をといていただき、できるだけ本人の納得する身だしなみをしてもらっている。外出する際は化粧やアクセサリ・普段とは違うおしゃれ等で楽しむようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 今年は献立づくり・材料の準備・下ごしらえ後、調理することをほとんど全員で行う企画を立て、成功する事ができた。野菜を洗う係・材料を切る係・食器の準備・配膳等役割を持ったことで皆が生き生きと動く姿を見ることができた。日頃からもできる方はいただいている。	
			(外部評価) 利用者の嗜好や年齢に合わせたメニューに基づいた食材の配達を、業者に依頼している。誕生日会のバイキングや季節の芋炊き、正月のおせち料理等は手作りするなど、食事は利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 歯のかみ合わせの悪い利用者にはきざみ食や一口大に副食をして少しでも多く食べていただけるよう、配慮している。摂取量が少ない方はエンシュア等で栄養補給している。水分は午前・午後・食後と何回も取っていただいている。夜間も手の届く所にお茶の準備あり。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、それぞれの方法で口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者には、セッティング・声かけ・介助を行っている。義歯のある利用者には夕食後ポリデントにて消毒を声かけし、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の状態確認も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄面に関し、良いレベルをなるべく維持できるように支援している。車椅子使用であっても立位がとれるので排泄の訴えあれば、昼夜トイレやPトイレに誘導している。訴えなくても時間やしぐさ・表情の観察によりトイレ誘導をしている。家族や本人とも話し合いながらより良い方向へと考え、気持ちよく排泄できる支援あり。</p> <p>(外部評価) 職員は、プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして排泄の自立に向けた支援に熱心に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日排便の有無を確認している。便秘者には水分補給・運動・腹部マッサージ等の大切さを伝え付き添って施行している。家族とも相談し、バナナ・ヨーグルト・牛乳・イモ類なども購入しすすめている。必要時には頓服の便秘薬を服用してもらう。体操時、腹部マッサージあり。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 2日に一度入浴をゆつくりと楽しんでもらっている。入浴時間帯は本人の希望を聞き、なるべくその希望にそえるようにしている。入浴時間や湯の温度も体調を見ながら又必要時医師や看護師とも相談しながら決めている。万一体調悪く入浴できない場合でも本人が希望すれば洗髪・足浴・清拭等を行い清潔保持に努めている。</p> <p>(外部評価) 夏期は週3回、冬期は週2回を目安に、心地良い入浴ができるよう支援している。現在のところ、入浴を拒否する方はおらず、利用者全員が入浴を楽しんでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者本意としている。希望時、食後・活動後いつでもベッドで休んでもらえるようにしている。自分でベッド臥床できない利用者は、介助にて支援している。夜は自然なリズムができ昼夜逆転予防の為にパジャマ着衣し、着脱の不自由な方は介助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的を理解してもらい、体調に合わせて服用してもらい、症状をみながら必要時薬の検討をしている。職員も処方箋の活用により薬の知識を増やしている。適切に内服できているか確認し、服薬が困難な場合はオブラートに包んで飲みやすく配慮している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の趣味や特技を生かして、毎日の生活の中で生きがいのある生活が送れるよう、楽しく暮らせるよう支援している。大正琴・生け花・草花の手入れ・犬の世話等の楽しみ事あり。気分転換のドライブや買い物は好評である。先日も市内のコスモス畑へ見学に行った。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれるように、花を見に散歩やドライブに行ったり、地域の方々との交流の機会があれば、参加できるように支援している。誕生日企画では市内で遠出をする事もあり、季節事の花見・もみじ狩り他楽しみにされている。 (外部評価) 玄関先や広い庭では気軽に外気浴を楽しむことができ、食事会をすることもある。スーパーへの買い物、花見、つくしとり、海岸等に出かけるなど、外出支援に熱心に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を持っていただくことにより、本人の安心感と責任を持って管理することの楽しみを持ってもらう。2週間に一度の買い物の日には、近所のスーパーなどに職員と一緒に出かけ、なるべく自分で支払いをしてもらっている。お金が使える楽しみを大切にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や季節の絵手紙などを楽しみながら書いてもらい、大切な人とのやり取りが続けられる様支援している。部屋の電話の近くに家族の電話番号を書いた紙を貼り、電話したい時に自分でかけられるよう支援している。必要時、番号を押す・又は電話をつなげる介助あり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節により窓の開放やエアコン調節を行い温度調整を行っている。冬季など乾燥しがちな時期は加湿機の使用や濡れタオルの活用により湿度を適度に保っている。又利用者と壁面に手作りの貼り絵を飾ったり、カレンダーづくりなどで季節感を演出している。玄関の花も絶やさない。利用者も玄関の花や置物を楽しみにしている。	
			(外部評価) 平屋のホームはゆとりのある造りになっている。利用者は畳コーナーのコタツでくつろぐことも多い。職員は、季節を感じてもらうためにカレンダーを一緒に作ったり、花を活けるなど、生活を楽しむ工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ・居間の活用・中庭にベンチを設けるなどして気の合う利用者同士のおしゃべりが弾むように配慮している。居間には堀こたつもある。ホールにも必要に応じ小テーブルを置き、ゆったりと会話を楽しめる雰囲気づくりをしている。玄関前には一人用の椅子もあり。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時、本人のなじみの家具や小物を持ち込んでもらい、環境を整えている。箸や茶碗・湯飲み等も使い慣れた物・好みの物を続けて使ってもらっている。机や大きな一人がけの椅子の持ち込みもあったが、転倒のないように、家具の配置にも気をつけている。	
			(外部評価) 「ここ(居室)にきたらほっとする」「好きなものがいっぱいある」「気持ち安らぐ」などの利用者の言葉を受け、職員は常に利用者にとって快適な空間にしたいと思い、熱心に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 毎朝職員とモップがけをする利用者がいる。洗濯物関係でもハンガーの準備・洗濯物干し・たたみ・仕分け・部屋への配りとできることを楽しみながらしてもらっている。みんなの役に立っているという充実感を大切にしている。又希望者には調理手伝いや果物を自分でむいてもらったりして、可能な範囲で自立支援に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	ユニットぐんちゅう
所在地	伊予市米湊字西窪1131番3
自己評価作成日	平成21年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人一人を大切にし、日常のケアを常に見直している。
 ・入居者同士の関係づくり ・利用者の家族との関係づくり。 ・地域とのつながりを大切にしている。地域運営推進会議での交流をはじめ地域の行事に積極的に参加している。 ボランティアの受け入れ。 色々なボランティアの受け入れを行い、利用者との関わりを深めている。伊予農生の園芸セラピーでは、回を重ねることで利用者とのつながりも深まり、草木・野菜の成長を楽しむと共に、先生・学生達との関わりを楽しみにしている。 スタッフが長所を認め合い・得意とすることを発揮し、生き生きと毎日働いている。利用者や周りの職員から 学ぶ姿勢があり、向学心が伺える。良い点は褒め、注意すべき点は言い合い、若い職員を先輩達は育てる姿勢が伺える。職員の良い関係をうれしく思っている。毎年更なる向上を願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、「認知症の方に悔いの残らないお世話をしたい」という熱い思いを持ってケアにあたる職員一人ひとりを大切に思い、協力してホームの運営をしている。職員は、利用者に対して優しく配慮に満ちた対応をし、利用者への尊敬の思いが深く、利用者と共に過ごす中で人生の先輩として精神的に支えたり助けてもらっていると感じている。声かけや会話は豊富で、ちょっとした小さくも見逃すことなく、希望の実現に繋げるよう努めている。孫世代の高校生と触れ合う園芸療法は利用者の心身の癒しとなっており、「よう来たな」「また来てな」と毎回楽しみにしている。介護計画はホームが独自につくり上げた様式を使っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)

氏名 武智 美知子

評価完了日 平成21年 10 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「その人らしく 安心して 地域の中でなじみのある生活を支援する」を事業所サブ理念として、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、理念を共有し、カンファレンスなどの会を利用して職員は話し合いながら、日々の実践につなげていっている。</p> <p>(外部評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」の理念を実践するため、全職員が接遇を第一に心がけたケアに取り組んでいる。サブ理念の達成のため、時間と手間を惜しむことなく地域との関わりに積極的に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 1～2週間に一度買い物やドライブの日を設け、積極的に伊予市内に出かけている。フジや町家等での買い物は皆楽しみにしている。毎年の住吉祭りの造り物展示・伊予踊りでは、地域のみなさんに楽しみにしていただいている。園芸セラピーの受け入れ・ボランティアも毎月のようにあり。組でゴミ置き場の清掃当番が回ってくる。</p> <p>(外部評価) 管理者は、井戸端会議ができるくらいに開かれたホームを目指している。高校生から園芸の楽しさを教えてもらう機会を設け、利用者の気持ちが癒されている。飼犬と一緒に散歩しながら近所の方と挨拶を交わしたり、季節の作物のおすそ分けをもらうこともある。ボランティアの受け入れは恒例になっており、利用者は心待ちにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症サポーター養成講座に参加し、それを全職員勉強会にて学び、皆オレンジリングを持っている。市役所主催の認知症徘徊者模擬訓練にも参加し地域の達人に訓練中、認知症について答えた事もある。見学者・面会人の質問にも答え、ボランティア受け入れ時も認知症の理解を呼び掛け、支援の輪を少しでも広めたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に地域運営推進会議を開き、参加者全員から意見・希望を聞き、サービス向上に活かしている。評価の公表も行った。何度か開催する内に顔見知りとなり、積極的に意見を言うようになっていった。管理者も他の事業所の地域運営推進会議に参加することにより、勉強した。サービスの向上に役立てたい。	職員が会議の役割を分担することは内部研修の一つになり、また行事と会議との組み合わせは参加者にホームへの理解を一層深めてもらうために効果的であり、地域との連携のためにより有意義な会議となるよう検討を期待したい。
			(外部評価) 外部評価の内容や改善点の報告、行事報告等だけでなく、会議の中で学習する機会も設けるなど、サービスの向上につなげるよう努めている。また、参加者から活発な意見を出してもらえよう運営の工夫もしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所関係他の行事には必ず参加し、情報収集・協力依頼を行っている。事業所内で起きた事故は必ず提出用紙に記入し、その都度報告を行っている。文書面でのわからない点は市役所への問い合わせをして確認している。営業で社協へ数回伺い、事業所をアピールし、顔見知りとなっている。	ホームの状況や相談事等を伝え、市の担当者や地域包括支援センターから課題解決のためのアドバイスや情報を得るなど、サービス向上のための協力関係を築いている。
			(外部評価) ホームの状況や相談事等を伝え、市の担当者や地域包括支援センターから課題解決のためのアドバイスや情報を得るなど、サービス向上のための協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を開き、職員は具体的な行為を理解している。家族の希望や職員会議により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束をしている利用者はいない。今後も身体拘束排除に向けて取り組む予定。	玄関入口は、日中は施錠せず、18時から明朝9時までは安全のため施錠している。利用者の安全を守るため、見守りを怠らないよう職員のチームワークで対応している。身体拘束ゼロで利用者の人権を守る介護を貫いている。
			(外部評価) 玄関入口は、日中は施錠せず、18時から明朝9時までは安全のため施錠している。利用者の安全を守るため、見守りを怠らないよう職員のチームワークで対応している。身体拘束ゼロで利用者の人権を守る介護を貫いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 今まで虐待はなし。高齢者虐待のニュースがあれば、その都度職員で話し合う機会を持ち、知識を広めている。接遇に気をつけ尊厳守る事の大切さを日頃より教育している。利用者からでなく職員からも困った事はないか聞く機会をつくっている。又元民生委員の来訪があり、利用者の相談の機会もある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の心配事には、親身に相談にのるよう心がけている。権利擁護に関する研修にも参加し、その後事業所内研修を必ず行っている。必要性がでた場合、活用できるように全員が知識レベルを上げたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に添って説明し、質問にはわかりやすく説明している。納得していただいた上で契約手続きをしている。利用中の料金改定・契約の内容変更等あれば、その理由も含め、説明の文書を家族へ送付し了解を得るようにしている。面会時などにも確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議で率直な意見を頂き前向きに施設に反映させている。玄関入り口に意見箱を設置し、入れられた内容も参考にさせてもらっている。又面会時等利用者や家族の希望を引き出す為の場面づくりに、努力し希望に添えるよう配慮をしている。 (外部評価) 家族からの意見や要望を積極的に伝えてもらえるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議に出席してもらったり、家族の来訪時には職員が声をかけて利用者の様子等を伝えるよう心がけている。家族から褒めてもらった内容も含め、記録に残して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員に意見を聞く姿勢に努めている。月に一度のケアカンファレンスでも職員の意見を毎回聞き、必要な事は定期的なホーム長会議にて、代表者に伝え、良い方向へと改善している。自分から意見の出さない職員にはこちらから、場をもうけて聞き取るようにしている。一人一人の日頃の感じた事・意見を大切にしている。 (外部評価) 管理者は、職員の意見や要望を積極的に聞くように努めており、役職や年代を超えた活発な意見交換により、職員全員でホームのサービス向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得者へは資格手当の支給あり。管理者を通し個々の努力や実績・勤務状況を把握し、昇給・賞与につなげている。又主任・リーダー等の役割を与えて、やりがいが持てるようにしている。不満あれば、時間をつくって話を聞くようにしている。職場の雰囲気づくりを大切にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者を通して各職員へ研修への参加を積極的にすすめている。社員には将来介護福祉士資格を取得するようよびかけている。事業所にもマニュアルや研修会資料をそろえ、いつでも勉強できる環境を整えている。今年も実践者研修受講済み職員あり。更なる向上心を望んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入している。又伊予市グループホーム連絡協議会研修にも毎回参加し、意見交換・情報収集をしながら交流を深めている。相互研修の参加により、他グループホームとの交流をはかった。 （「おもや」には利用者も数人行き交流あり。）	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前アセスメントには十分時間を取って、本人や家族の声・思いを聞き取る努力をしている。特に初期の段階には常に本人に寄り添い思いを受け止め、不安な気持ちの軽減に努めてきた。又、家族とまめに連絡を取り、本人の身近の環境を整え、家族にも安心してもらえるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安な気持ちに共感し、できる範囲の情報提供に努め不安の解消につなげている。初期段階には、本人の状態等家族との連絡をまめに行い、安心していただいている。又本人と家族の思いの違いの有無の確認も行っている。一時間以上不安な事を聞くこともあり。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) いつでも問い合わせ・見学可能となっている。通所介護はお試し利用制度あり。本人と家族の希望を大切にし、相談に対応しながら他サービスとの連携に努めている。(病院受診の件等)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯たたみ・掃除・調理等持っている力を十分発揮していただき、生きがいをもって生活していただいている。又職員と利用者が一緒にすることで、気付くことやお互いを思いやる気持ちも生まれている。皆、家族の一員である。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の素直な意見やできごとを家族に報告しながら、職員も利用者の思いに寄り添っていることを感じてもらいながら、家族と一緒に本人を支えていけるような関係づくりを大切にしている。面会の機会を多くしてもらえようをお願いをしている。毎月ホームダよりで写真等を送付し、近況を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会等でのコミュニケーションの中でグループホームに親近感を持って頂き、友人・知人・親類等誰でも気軽に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。誕生日企画で本人希望の馴染みの人に逢ったり場所へ行き、希望をかなえている。美容室・理容室・墓参り・カラオケ・外食・買い物他。 (外部評価) 家族や親族等から手紙が届いたり、幼馴染の訪問があったり、ふと会話の中に出てくる昔話から昔を懐かしむなど、馴染みの関係継続の支援を意識している。本人の希望に応じて、自宅に帰る、墓参りに行く、敬老会に参加するなどの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は常に周囲に気を配り、一人で過ごしている方・寂しい思いをしている方がいないか気を配り、声かけや関わりがもてるよう支援している。場の提供(セッティング) 例料理づくり・レクリエーション。職員も利用者に教えてもらおうという姿勢がある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 万一入院した場合は、職員が定期的に見舞いに行き、利用者の状態の把握に努めて回復を見守っている。退居後も本人・家族の希望があれば、なるべく要望にそえるように努力している。電話での相談にも応じている。町で家族に逢うことあり。気軽に声をかけてもらっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人と話をする時間をゆっくりととり、具体的な希望を聞き、職員全員が希望を把握している。職員でカンファレンスを開きより情報の共有・具体的な支援方法を理解している。困難な場合は家族の希望を聞き、できるだけ本人本意としている。 (外部評価) 居室は、利用者それぞれがほっと安心できる空間となっている。職員は、利用者の思いや希望を尊重し、部屋の片付けの手伝い等では、静かに見守りながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞き、生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境など可能な範囲で聞き取り、センター方式のシートに記入し、情報の共有・活用に努めている。又入居時のアセスメントに終わらず、新しい情報があれば、その都度書き入れ、情報活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の病歴や本人の心身状態がわかるように一覧表にまとめ、すぐに把握できるようにしている。日頃の生活の中で残存能力の発見に努め、それを職員間で情報を共有し、その力を発揮できる場をもうけている。(掃除・せんたくたたみ・おやつづくり手伝い・昼寝他)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 面会時又は電話にて家族の希望を確認した後、毎月ケアカンファレンスを開き、職員全員で本人に対する気づきを出し合い、課題・希望・支援方法を話し合い、その方に合った介護方法を考案し、介護計画を立てている。介護関係以外でも正看護師の参加により、医療面でのアドバイス・ケアについても助言がある為、学ぶ機会あり。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、まず利用者の希望を目標として定め、困っていることを課題として、支援や介護の内容・方法等を考えて作成している。さらに、より具体的な目標を設定して毎日記録に残し、月1回は評価して見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人別に毎日時間を追って状態を記入し、特に気になる言動があれば必ず記入して本人の状態を全員が把握できるようにしている。又ケアプランの具体的な項目にそって実行できたかどうか確認をし、実行できれば○印をし、月末にはそのプランに対しての評価を一言記入し、次月に反映できるようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症対応型通所介護を一日3名まで受け入れている。家族の希望によって時間の延長もしていた。また大きな催し物などは3事業所で参加している。家族にも呼びかけをし、施設内の季節の催しやボランティア行事などにも家族の面会時などには声かけをしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域運営推進会議時以外でも、民生委員の方が来られたり、ボランティアで色々な催し物などもしていただきっており、年2回の消防訓練以外にも今年は救命講習も受けている。今年も伊予農業高校による園芸セラピーも昨年よりもバラエティ豊かとなり、フラワーアレンジメントなどの作品づくりも行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 病気の状態に応じて、本人や家族の希望する医療が受 けられるように支援している。必要時眼科や歯科・整 形外科等にも家族との連絡をとりながら、家族の希望 を受けて治療を行っている。受診の際には情報を提供 し、スムーズに受診できるよう支援している。連携を 密にして健康状態の維持に努めている。歯科受診2名 あり。 (外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関に受診できるよう支 援している。協力医療機関からの訪問診療があり、本 人や家族の希望があれば、かかりつけ医が異なる場合 も受けることが可能な体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 早い段階で状態変化や異常に気付くために、職員が一 日2回のバイタルチェックを行っている。異常が見ら れたら主治医に連絡をし、状態を知らせ指示をあおぐ ようにしている。その為にも看護職と介護職間で情報 を共有し、利用者の健康管理に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時には本人の状態を家族及び病院へ連絡をする。 必ずスタッフも入院に付き添い、医療機関に日頃の本 人の情報提供を行っている。入院中も見舞いに行った 際、関係者から情報を得て、早期退院できるように準 備している。退院時にも医療機関からの情報を提供し てもらい、注意事項を確認し合って介護し、支援をし ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方は、本人の病状を家族に説明しなが ら、家族の希望を確認しながらできることの確認を行 い、なるべく希望にそえるようにしている。緊急対応 時はどの職員でも対応できるように指導・対応法を練 習している。終末期には病院ドクター・ホームの看護 職等に連絡するようになっていく。本年看取りの指針 策定あり。 (外部評価) 看取りの経験はないが、今年度に看取りの指針を改訂 し、より充実した内容とするべく検討している。看取 り介護の体制は整えており、本人や家族の思い・希望 を第一に考え、同意を得て取り組むこととしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日午前と午後の2回バイタルチェックをし、利用者の体調変化を早期に発見している。看護師に急変時の応急手当を指導してもらったり消防署で行なわれた講習会に参加し、参加できなかった職員にも伝え資料を見たりして全員が対応できるようにしている。夜勤帯に急変した場合でも緊急連絡網があるので、慌てず対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、実際に消防署員にも来ていただき、助言・指導してもらっている。地域の方々には地域運営推進会議にて災害時の協力依頼を行っている。災害時に持ち出す最低限の水・食料なども準備できている。地区の自主防災の勉強会にも参加し、防災資材借りれるようになっている。 (外部評価) 消防署立ち会いのもと、夜間も想定した避難訓練を実施している。非常用の食料や備品の点検、消火訓練やビデオ学習等も実施している。近所の方にも訓練実施の際に声をかけ、協力が得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者との接し方（言葉遣い含め）に関しては、全職員が日頃から利用者を尊敬の気持ちを持って接するように努めている。又居室に訪室する時や入浴時にはその方のプライバシーを守る配慮をし、やさしく声かけしている。管理者として接遇の大切さを日頃より教育している。 (外部評価) 職員が利用者一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない対応に気をつけていることは、穏やかで笑顔あふれる利用者の表情からも伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるだけ本人が何をしたいのかを聞き、その希望に添えるように職員も一緒に考えている。考えている間のちょっとした表情にも気をつけながら本人の希望を把握していく。誕生日企画の外出も本人の希望を大切にしている。自宅へ帰ってぶどうの収穫。娘との外出。墓参り。スーパーでの買い物他。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に職員に意見を聞く姿勢に努めている。月に一度のケアカンファレンスでも職員の意見を毎回聞き、必要な事は定期的なホーム長会議にて、代表者に伝え、良い方向へと改善している。自分から意見の出さない職員にはこちらから、場をもうけて聞き取るようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、自ら洋服を着ることができない利用者には、職員が洋服を見せて選んでいただくなど、本人の意志を大切にしている。整容時も鏡の前で自分で髪をといていただき、できるだけ本人の納得する身だしなみをしてもらっている。外出する際は化粧やアクセサリ・普段とは違うおしゃれ等で楽しむようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日頃から食事づくり・おやつづくりは手伝ってもらい、楽しみ・能力の発揮の場となっている。昼食は利用者と職員と一緒に食べ、だんらんの雰囲気を大切にしている。片づけ・おぼん拭き等、できる範囲のことを、職員と一緒にしながらあせらずゆったりと楽しんでいただいている。職員と一緒にスーパーへ行き買い物も行う。 (外部評価) 利用者の嗜好や年齢に合わせたメニューに基づいた食材の配達を、業者に依頼している。誕生日会のバイキングや季節の芋炊き、正月のおせち料理等は手作りするなど、食事は利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量の少ない利用者はエンシュアをすすめる。カリウム不足の方はバナナ等すすめる。水分も各摂取時間に、確認の○印の記録ある。状態悪化時には正確に水分を計ることあり。日々の記録に記している。食事の時のお茶の熱さにも好みあり、習慣に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、それぞれの方法で口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者には、セッティング・声かけ・介助を行っている。義歯のある利用者には夕食後ポリドントにて消毒を声かけし、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の状態確認も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄面に関し、良いレベルをなるべく維持できるように支援している。車椅子使用であっても立位がとれるので排泄の訴えあれば、昼夜トイレやPトイレに誘導している。訴えなくても時間やしぐさ・表情の観察によりトイレ誘導をしている。レベル良くなり、紙パンツから布パンツに変更した利用者あり。</p> <p>(外部評価) 職員は、プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして排泄の自立に向けた支援に熱心に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日排便の有無を確認している。便秘者には水分補給・運動・腹部マッサージ等の大切さを伝え付き添って施行している。家族とも相談し、バナナ・ヨーグルト・牛乳・イモ類なども購入しすすめている。おやつにも繊維の多い物摂取する事あり。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 2日に一度入浴をゆっくりと楽しんでもらっている。入浴時間帯は本人の希望を聞き、なるべくその希望にそえるようにしている。入浴時間や湯の温度も体調を見ながら又必要時医師や看護師とも相談しながら決めている。男性介護嫌がる女性には女性職員が介助している。</p> <p>(外部評価) 夏期は週3回、冬期は週2回を目安に、心地良い入浴ができるよう支援している。現在のところ、入浴を拒否する方はおらず、利用者全員が入浴を楽しんでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者本意としている。希望時、食後・活動後いつでもベッドで休んでもらえるようにしている。自分でベッド臥床できない利用者は、介助にて支援している。天気の良い日には布団を干している。日中の軽い運動の取り入れもあり。安眠を考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的を理解してもらい、体調に合わせて服用してもらい、症状をみながら薬の検討をしている。職員も処方箋の活用により薬の知識を増やしている。適切に内服できているか確認し、服薬が困難な場合はオブラートに包んで飲みやすく配慮している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の趣味や特技を生かして、毎日の生活の中で生きがいのある生活が送れるよう、楽しく暮らせるよう支援している。俳句づくり・毎日の中庭の散歩・墓参り・美容院へのかよひ・スーパーでの買い物・花の手入れ他。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれるように、花を見に散歩やドライブに行ったり、地域の方々との交流の機会があれば、参加できるように支援している。誕生日企画では市内で遠出をする事もあり、季節事の花見・もみじ狩り他楽しみにされている。近所への散歩・カラオケ・海を見にドライブ・生き生きサロンの参加・折り紙教室の参加・敬老会等。 (外部評価) 玄関先や広い庭では気軽に外気浴を楽しむことができ、食事会をすることもある。スーパーへの買い物、花見、つくしとり、海岸等に出かけるなど、外出支援に熱心に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を持っていただくことにより、本人の安心感と責任を持って管理することの楽しみを持ってもらう。2週間に一度の買い物の日には、近所のスーパーなどに職員と一緒に出かけ、なるべく自分で支払いをしてもらっている。お金が使える楽しみを大切にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や季節の絵手紙などを楽しみながら書いてもらい、大切な人とのやり取りが続けられる様支援している。部屋の電話の近くに家族の電話番号を書いた紙を貼り、電話したい時に自分でかけられるよう支援している。必要時、番号を押す・又は電話をつなげる介助あり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節により窓の開放やエアコン調節を行い温度調整を行っている。冬季など乾燥しがちな時期は加湿機の使用や濡れタオルの活用によ湿度を適度に保っている。又利用者と壁面に手作りの貼り絵を飾ったり、カレンダーづくりなどで季節感を演出している。玄関の花も絶やさない。自分で花を生ける利用者あり。</p> <p>(外部評価) 平屋のホームはゆとりのある造りになっている。利用者は畳コーナーのコタツでくつろぐことも多い。職員は、季節を感じてもらうためにカレンダーを一緒に作ったり、花を活けるなど、生活を楽しむ工夫に努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ・居間の活用・中庭にベンチをもうけるなどして気のあう利用者同士のおしゃべりが弾むように配慮している。居間には堀こたつもある。ホールにも必要に応じ小テーブルを置き、ゆったりと会話を楽しめる雰囲気づくりをしている。玄関前には一人用の椅子もあり。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時、本人のなじみの家具や小物を持ち込んでもらい、環境を整えている。箸や茶碗・湯飲み等も使い慣れた物・好みの物を続けて使ってもらっている。仏壇の前にはしきびを飾り、ごはんのお供え毎朝あり。俳句作りのための机・椅子・書籍の用意。化粧鏡・手まりかざり他。本人の好みを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 「ここ(居室)にきたらほっとする」「好きなものがいっぱいある」「気持ち安らぐ」などの利用者の言葉を受け、職員は常に利用者にとって快適な空間にしたいと思い、熱心に取り組んでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 毎朝職員とモップがけをする利用者がある。洗濯物関係でもハンガーの準備・洗濯物干し・たたみ・仕分け・部屋配りとできることを楽しみながらしてもらっている。又希望者には調理手伝いやあらやけ・おやつづくりあり。洗濯機の説明書き・トイレの説明書き・電話番号書き・アイロンかけ他。</p>	